

**総合日本語 (Integrated Japanese) II (6) (L6-L7) シラバス****科目名・曜日・時限（教室）と担当教員**

火曜 4 限 (166) : \* \* \* \* \* \*\*\*\*\*

金曜 4 限 (10-205) : 松下達彦 \*\*\*\*\*

\*L6-L7 コーディネータ 松下達彦

研究室 : \*\*\*\*\*

\*曜、\*曜、\*曜の\*時以降は研究室にすることが多いのですが、面談・アドバイスを希望する場合、事前にアポイントメントを取ることが望ましいです。

**対象** : KOMSTEP/USTEP の L6-L7 レベルの学生のみ**単位数** : 計 4 単位**授業の目標、概要**

この科目は上級レベル（上位 1 万語がほとんど理解できるレベル）の学生を対象とする。聴解や読解を通じて、世界や地域社会を理解するための語彙や社会文化知識を学生自身が増やしていくのを支援することを目指す。履修者のニーズに応じた文章作成の訓練も行う。また、学習や生活を自己管理する能力の向上を目指す。

より具体的には、科目の終了時まで以下に以下の諸点を実現することを目標とする。

- 1) 学生のニーズに応じた分野の読解・聴解を通じて、語彙や社会文化知識を増やす。
- 2) 日常生活や学習の過程で生じる多様な疑問を解決し、理解できる表現や社会文化知識を増やす。
- 3) 文章の作成や討論、発表を通じて、多角的な視点、批判的な思考力、他者との協働によって新たな知を創造するためのマナーを身に着ける。
- 4) 言語を通じて学習や生活を自己管理する基本的な能力を身につける。

**授業のキーワード**

読解 聴解 語彙力 社会文化知識 作文 知の創造 学習管理

**授業計画**

別添<sup>べつてん</sup>のスケジュール表を参照すること。

**使用教材**

教科書は使用しない。当初は生素材をユニットごとにまとめたもの（パッケージ）を使用するが、それ以降は、学生のニーズに応じたテキストを学生自身が探し、教員と相談の上で素材を決定していく。

このほか、「学習・生活 振り返りシート」など、学習管理、自律性の向上に関連するハンドアウトを必要に応じて配布する。

**授業の方法**

A) 学生に要求されること

- 自分のニーズにあった読解素材または聴解素材を選んで教員に提案すること
- 合意した素材を毎回読んで（聞いて）きて、語句・表現や文法、文章の背景などについて調べてきて、疑問点をクラスで確認すること
- 日常生活や学習の過程で出てきた日本語などに関する疑問を教室で提示すること
- 積極的に議論に参加し、授業の内外でのクラスメートや教員からのフィードバックを批判的に受容すること
- 「私の留學生活」の授業の一環として、「目標設定シート」「振り返りシート：「私の留學生活」についての作文」「最終評価シート」等を作成、提出すること。クラス内でその内容について建設的に議論し、内省する。内省に基づき学習や生活を改善する。

#### B) 担当教員の行なうこと

- 提示された授業時間において、クラスの運営を適切に管理し、示した計画の通り授業を進めること。変更は、合理的かつ明確な理由を提示し、学生の了解を経た上で行うこと。
- 個々の学生のニーズとレディネス・学習環境に応じ、学習に関する適切なアドバイスや学習リソース提供を行うこと。
  - 事前に取り組む予習課題を提示すること
  - 質問に回答すること
  - 提出物に適切なフィードバック（表現の添削や内容に関するコメント）を与えること
  - 授業内での討論を企画し、討論の内容に適切なアドバイスやコメントを与えること
  - 「プロジェクト」や「私の留學生活」などについて、必要に応じて適切なアドバイスをすること。
  - 目標の達成度を、適切な基準によって評価し、各学生にフィードバックすること。

授業目標を達成するためには、上記AとBについて、学生と教員による所定の努力が必要である。

#### 成績評価方法

以下の諸点に基づき評価する。

1) クラス内での活動（発表を含む）	15%
2) U1 読解/聴解シート・語句など	3%
3) 期末（語句+U1 読解/聴解）テスト	40%
4) 短文シート	5%
5) 課題作文	25%
6) 学習・生活の振り返り	12%

計100%

最終的な成績
A+（優上）：90～100
A（優）：80～89
B（良）：79～65
C（可）：64～50
F（不合格）：49～0

- \* 「2) U1 関連評価」には、冒頭で行うユニット1の短文作成、語句テスト、ディスカッション、作文が含まれる
- \* 出席が70%に満たない場合はF（＝不合格）または「未受験」となる。30分未満の遅刻・早退は3回で欠席1回と計算される。30分以上の遅刻・早退は欠席とする。
- \* 提出物は原則として提出期限を過ぎたら受け取らない。（事故や病気により遅れて提出する場合は、証拠（例：病院の領収証）を示すこと。）

\* 期末試験を事故や病気で欠席した場合、原則として医師の診断書を提出した場合に限り、後日の受験などの代替措置を認める。

### 「クラス内での活動」の主な評価基準

提出物の合評、発表後のディスカッション、教員の講義に対する質疑など、クラス内での活動全般について、以下の諸点などにつき、教員の観察により総合的に評価する。

#### ✚ 積極性、頻度

#### ✚ わかりやすさ、発言の態度・方法

- ・わかりやすいか
- ・発言は効果的になされているか
- ・他者と議論する際のマナーは適切か

#### ✚ 論理性・批判性

- ・根拠に基づいた議論か
- ・異なる視点の提示や検討があるか

#### ✚ 創造性・発展性

- ・新しい発想や刺激があるか
- ・新しい課題の発見があるか

### 期末（語句）テスト

- ・聞いて理解して書くこと、見て理解すること、指定語句を正しく使用することなど、語彙知識の多様な側面をテストする。

### 課題作文

- ・テーマによって評価基準は異なるが、学術的な文章については、レポート同様のスタイルが要求される。詳細は授業内で説明する。
- ・取り組んでいる内容について、口頭発表を課すことがある。その場合、評価は「クラス内での活動」に含める。

### 学習・生活振り返りシート

どのぐらい学習の管理や振り返りがよくできているか、を主に評価する。以下の観点から、学生と教員のそれぞれが評価する。①目標設定・活動の選択（有用性・適切さ）、②計画性・継続性、③内容・質（過程・成果）。進め方の詳細は授業内で説明する。

### 不正行為の禁止

試験におけるカンニング、提出課題における他者の著作の盗用などの不正行為は固く禁じられている。提出課題は必ず学生自身のオリジナルでなければならない。他者の著作を引用する場合は、引用の範囲または内容と、出典が明示されていなければならない。カンニングや盗用が証明された場合には、大学の規定により、当該学期のすべての科目の成績が自動的に「不可」(F)となる。

### 関連ホームページ

必要に応じて配布物や授業内で指示する。学生からの情報提供も歓迎する。

### 授業計画 →別添のスケジュール表参照

以上